

プリザーブドフラワー協会コンテスト展示会 in 東京都中央区日本橋 フロールエバーギャラリー 2014.4.11(金)

プリザーブドフラワーは、生花を加工して長い間、美しいままの状態を保てるようにした花。造花ではなく、本物の花だから、花ひとつひとつの表情の違いを楽しむこともできますよ。会場には、そのプリザーブドフラワーを花材にしたアレンジメントが展示されていました。

プリザーブドフラワーの加工法を簡単に説明すると、栽培した花を切つてすぐ、工場で花の水分を抜いて、代わりにプリザーブドフラワー専用液を注入する、というもの。花の水分には老化を進めるバクテリアが含まれているので、水を抜くことで、長保ちする花へとモデルチェンジできる、という理論です。プリザーブドフラワーの生産の主力は南米コロンビア。コロンビアの農場で生産され、工場で加工された花が日本へと輸入されています。



左はコロンビアのプリザーブドフラワーを日本に輸入する会社、(株)アスク 代表取締役 エドゥアルド・カルデナスさん。カルデナスさんは駐日コロンビア大使の弟さん。駐日大使の着任の何年も前から、日本でプリザーブドフラワーのビジネスをしてらしたそうです。円内は、日本に最初にコロンビアのプリザーブドフラワーを紹介した立役者、(株)アスクの久保田典胤さん。中央は、プリザービングフラワー協会会長の網野妙子さん。右・山下ようこ



ギャラリーの扉を開けて、一步、足を踏み入ると、そこにはバラのプリザーブドフラワー。素敵な出迎え、おもてなしです。



それではコンテストの受賞作品の
いくつかをご紹介します!!



写真左はポピー賞の鎌田由美子さんの作品。白を基調にした清らかなイメージです。

右は東栄賞の飯田博子さんの作品。シックな渋い色彩が魅力的です。



ノーブルトレダース賞の高島恵子さんの作品。クチナシ(ガーデニア)の白い花が素敵、まるで甘い香りが漂ってくるかのよう。



モノ・インターナショナル賞は倉持紀栄さんの作品。グリーン色のバラが斬新です。



そして見事、最優秀賞に輝いたのは、西郷祐子さんの作品。スマートなカラーと豪華なイメージのバラのコントラストが美しい!!